

# 生態系の中で生きていくために ～野糞に学ぶ～

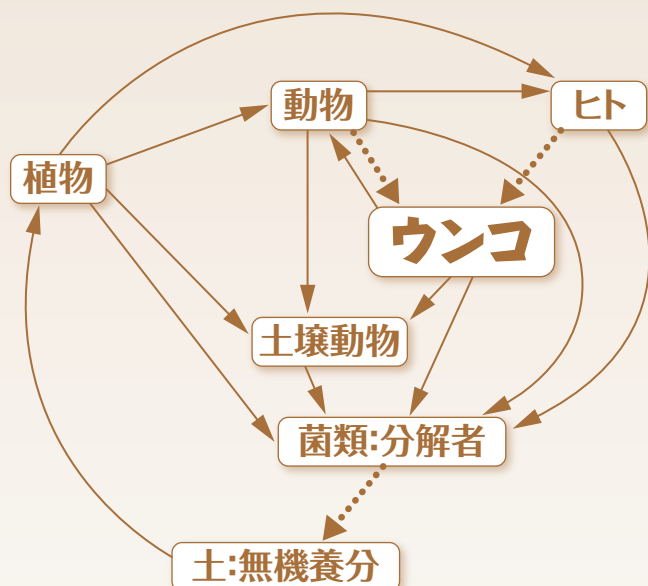
## 食は権利、ウンコは責任、野糞は命の返し方!

「人間は動物ではない」などと偉ぶってはみても、ヒトは生き物である以上、動物・植物・菌類が共生する生態系の中でしか生きられない。

全ての生き物は、生きるエネルギーを得るために食べ、不要なものをウンコとして捨てる。そして我々人間の食べ物は皆、命ある生き物だ。では、人間は生態系の中で共生するために、多くの命を奪うだけでなく、他の生き物に命を返しているだろうか?

無限に命が循環する生態系の要は、実はウンコにある。AのウンコはBの食べ物になり、BのウンコはCの食べ物になり、そしてCのウンコがAの食べ物になって帰ってくる。この食べ物とウンコの関係性を正しく理解し、それを尊重した生き方をすることこそ、生態系の中で生きる責任を果たすことになる。

臭い、汚い、下品だというウンコへの偏見を捨て、真摯にウンコに向き合ってこそ、はじめて気高い人間性が育めるのだ。



### 講演者 糞土師 伊沢 正名氏

20才のときに自然保護運動をはじめたのを契機に独学で撮影術を身につけ、自然写真の道に入る。また、本来土に還るべきウンコが自然のサイクルから排除されていることに義憤を感じ、1974年から意識的に野糞をはじめ、紙を使わず水と葉っぱを使用する「伊沢流インド式野糞法」を確立した。1999年には野糞率100%を達成。その後、2008年には連続3千日野糞達成。のべ回数は1万回を超え、21世紀になってからは一度もトイレで排便をしていない。2007年からは、野糞跡のウンコが完全に土に還るまでの過程を、掘り返して詳細に調査する「野糞跡掘り返し調査」を実施した。著書に『くうねるのぐそ』(山と溪谷社、2009年)があり。

3月の地震・津波で、多くの人が自然のパワーのすさまじさを知った。同時に、原発事故による放射能汚染で、あらためて原発の危険性を認識するようになった。それでは、今後は原発の安全性を高めればよいのだろうか?それとも、脱原発して代替エネルギーで電力をカバーしたらよいのだろうか?

問題の本質は、そんなことではない。これまで、人々が追求してきた豊かさや快適さ・便利さが多くの電気を必要とする類のもので、その電力需要に応えるために、原発は造られた。われわれ一人ひとりの欲望が原発を生んだのだ。

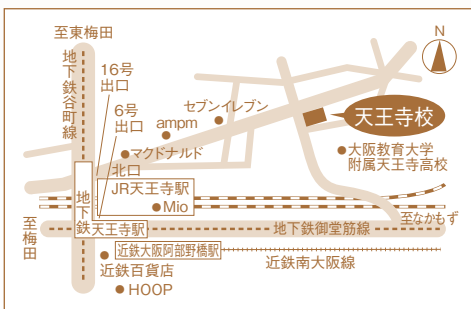
ことは原発や電力の問題だけではない。水・ガス・石油・紙・食べ物…、自然との調和を忘れ、われわれは資源とエネルギーを大量消費してきた。水洗トイレでウンコを流すためだけでも、膨大な資源・エネルギーが費やされている。

自然との付き合い方、資源・エネルギー問題、命の循環…そういうことを、諸君にもう一度見つめなおしてもらいたいと思って、伊沢さんの講演を企画した。  
(日本史科講師 安田陽介)

●日時 **6月18日(土)**  
午後1時40分  
～午後3時10分(予定)

●会場 河合塾 天王寺校

**入場無料**



**河合塾 天王寺校**  
☎ 0120-070014

〒543-0054  
大阪市天王寺区南河堀町3-23

【アクセス】  
●JR天王寺駅下車北出口 徒歩5分  
●近鉄大阪阿部野橋駅下車 徒歩8分  
●地下鉄御堂筋線・谷町線天王寺駅下車 徒歩6分